

資 料 編

- 1 . 第 2 回自然環境保全基礎調査検討会
- 2 . 調査実施担当者名簿
- 3 . 第 2 回自然環境保全基礎調査特定植物群落調査要綱
- 4 . 第 2 回自然環境保全基礎調査特定植物群落調査集計整理作業実施要領
- 5 . 群落コード一覧表

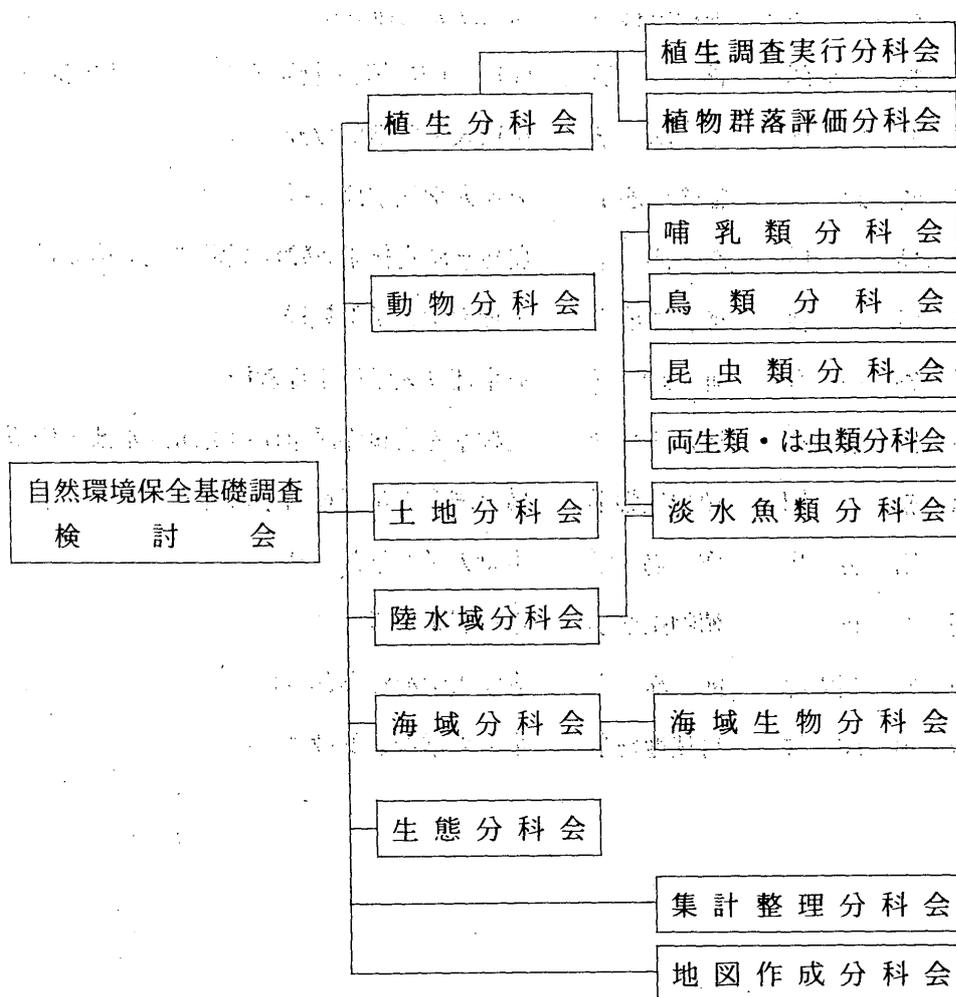
1. 第2回自然環境保全基礎調査検討会

(1) 第2回自然環境保全基礎調査検討会の組織と役割

第2回自然環境保全基礎調査を実施するにあたり、昭和51年度より学識経験者で構成される調査検討会、同分科会が組織された。調査検討会においては、調査項目、方法等の骨子が検討された。

また、植生分科会においては、特定植物群落調査要綱が検討された。

(2) 第2回自然環境保全基礎調査検討会 組織図



(3) 第2回自然環境保全基礎調査検討会名簿

	氏名	専門分野	所属
座長	宝月欣二	植物生態学	玉川大学農学部教授
	有賀祐勝	植物生態学	東京水産大学助教授
	池田真次郎	動物生態学	(財)世界野生生物基金日本委員会理事
	今泉吉典	動物分類学	前国立科学博物館動物研究部長
	奥富清	植物生態学	東京農工大学農学部教授
	北沢右三	動物生態学	九州産業医科大学教授
	北森良之助	海洋生物学	前農林水産省東海区水産研究所水質部汚濁対策研究室長
	佐々学	環境生物学	前国立公害研究所長
	佐藤大七郎	林学	(財)日本野生生物研究センター理事長
	高井康雄	土壌学	東京大学農学部教授
	田崎忠良	植物生態学	東邦大学理学部教授
	中島厳	航測学	農林水産省林業試験場経営部経営第2科長
	沼田真	植物生態学	千葉大学理学部教授
	半谷高久	地球化学	東京都立大学理学部教授
	古田能久	陸水生物学	農林水産省東海区水産研究所陸水部主任研究官
	宮脇昭	植物生態学	横浜国立大学環境科学研究センター教授
	村田吉男	作物学	東京大学農学部教授
	門司正三	植物生態学	東京農業大学教授
	山本護太郎	海洋学	東海大学海洋学部教授
	吉川虎雄	自然地理学	東京大学理学部教授

(4) 植生分科会

座長	奥 富 清	東京農工大学農学部教授
	井 手 久 登	東京大学農学部助教授
	奥 田 重 俊	横浜国立大学環境科学研究センター助教授
	中 村 徹	筑波大学農林学系助手

2. 調査実施担当者名簿

氏 名	所 属	分 担 分 野
1. 北海道		
樋口 松 雄	生活環境部自然保護課長	総 括
伊藤 浩 司	北大環境科学研究科教授	現地調査及びとりまとめ
春木 雅 寛	” 助手	”
森 俊 道	生活環境部自然保護課 企画調査係長	報告書作成
上田 正 幸	” 企画調査係 主事	”
小川 巖	” 技師	”
内藤 洋	” ”	”
浅井 定 美	” ”	”
2. 青 森		
岩本 英 一	自然保護課	総括責任者
石川 茂 雄	東北女子大学	調 査
山田 耕一郎	青森中央短期大学	”
原 子 一 男	青森第三養護学校	”
赤坂 正 一	青森県林業試験場	”
斉藤 宗 勝	東北女子大学	”
福真 秀 則	元弘前大学 学生	”
斉藤 信 夫	三厩中学校	”
高橋 晃	県立浪岡高校	”
今 純 一	青森県林業試験場	”
若原 寿 明	”	”
岩村 良 男	”	”

氏 名	所 属	分 担 分 野
斉 藤 正 宏	自然保護課	調査企画指導
相 馬 義 信	〃	〃
原 田 直 英	〃	〃
3 . 岩 手		
村 井 三 郎	林業試験場東北支場研究顧問	総括責任者，現地調査
小 林 隆 二	岩手県立教育センター研究員	現地調査
高 橋 政 利	岩手県岩手町立北山形中学校教諭	〃
4 . 宮 城		
飯 泉 茂	東北大学理学部生物学教室	総括責任者
菅 原 亀 悦	岩手大学人文社会科学科	現地調査及び取り纏め
内 藤 俊 彦	東北大学理学部植物園	〃
大 柳 雄 彦	宮城県環境保全課	〃
尾 山 郁 夫	〃	現地調査補助
高 橋 一 夫	〃	〃
5 . 秋 田		
堀 江 文 夫	秋田県環境保健部自然保護課長	総括責任者
進 藤 熊太郎	聖園短期大学教授	専門検討委員会委員 調査員
松 山 忠	秋田県立秋田高等学校教諭	〃
望 月 陸 夫	秋田県立湯沢高等学校教諭	〃
高 橋 祥 祐	秋田県立五城目高等学校教諭	〃
高 田 順	秋田県立博物館学芸主事	〃
越前谷 康	秋田県林務部林政課主任技術員	〃
伊 藤 純一郎	秋田県環境保健部自然保護課課長補佐	調査企画・指導
桃 崎 富 雄	〃 主査	〃

氏 名	所 属	分 担 分 野
長谷川 隆	秋田県環境保健部自然保護課主事	調査企画・指導
佐々木 勝二	〃	〃
6. 山 形		
斎 藤 員 郎	山形大学教養部	総括および特定植物群落 (対象番号 3, 6~21, 24, 26~35, 37, 39, 44~49, 53, 56, 58, 59, 61, 63~67, 69, 71, 72, 78, 79)
結 城 嘉 美	山形県立博物館	特定植物個体群および植 物群落(対象番号 5, 23, 25, 36, 38, 40~43, 50~52, 54, 55, 57, 60, 70, 73~77)
石 塚 和 雄	山形大学教養部	特定植物群落(対象番号 1, 2, 4, 22, 62, 68)
7. 福 島		
馬 場 篤		南会津郡
馬 場 義 仲	荒館小学校	耶 麻 郡
長谷川 公 一	磐城高校	いわき市
樋 口 利 雄	福島農蚕高校	南会津郡
穂 積 友 大	白河一小	西白河郡
五十嵐 彰	福島女子高	福 島 市
今 泉 健 志	郡山女子高	郡山市・田村郡
檜 村 利 道	福島大学	耶 麻 郡
栗 城 伸 夫	野尻小学校	北会津郡
大須賀 昭 雄	若松女子高	耶 麻 郡
志 賀 広 明	石神中学校	相馬郡・双葉郡
須 賀 紀 一	県教育センター	東白川郡

氏 名	所 属	分 担 分 野
8 . 茨 城		
鈴 木 昌 友	茨城大学教育学部	総括責任者
安 昌 美	県立緑岡高等学校	
中 村 安 洋	県立佐竹高等学校	
和 田 尚 幸	県立日立第一高等学校	
桜 井 雅 幸	茨城大学教育学部	
森 豊 児	"	
田 崎 はるえ	県立水戸養護学校	
安 藤 博	"	
中 村 直 美	茨城大学教育学部	
深 作 哲太郎	元県林業試験場職員	
堀 内 孝 雄	県林業試験場	
棚 谷 満 弘	県立土浦第一高等学校	
斎 藤 勝 彦	茨城大学教育学部	
福 田 良 市	"	
有 原 千香子	"	
和 田 充	"	
庄 司 恵 子	"	
藤 田 弘 道	緒川村立緒川小学校	
桜 井 尚 之	茨城大学教育学部	
斎 藤 昌 義	"	
篠 原 愛 子	"	
後 藤 直 和	県立水戸第二高等学校	
石 崎 春 恵	江戸崎町立高田小学校	

氏 名	所 属	分 担 分 野
柴 真 弓	茨城大学教育学部	
菅 波 洋 平	十王町立十王中学校	
斎 藤 桂 子	阿見町立阿見小学校	
森 口 茂 子	緒川村立緒川小学校	
五木田 悦 郎	県立水海道第一高等学校	
9 . 栃 木		
森 谷 憲	宇都宮大学名誉教授	総括責任者
薄 井 宏	宇都宮大学教授	調 査 者
久保田 秀 夫	東京大学理学部附属植物園日光分園	〃
杉 田 勇 治	栃木県農務部園芸特産課	〃
加 藤 仁	大田原市立紫塚小学校教諭	〃
酒 井 芳 男	黒磯市立日新中学校教諭	〃
志 田 篤 彦	宇都宮大学	〃
櫛 田 行 宏	〃	〃
佐 藤 光 一	〃	〃
10 . 群 馬		
堀 正 一	群馬大学教授	総括責任者
里 見 哲 夫	南牧村月形中学校校長	とりまとめ責任者，調査地選定員，多野・甘楽・オリ根を中心に県内全般
須 藤 志成幸	伊勢崎女子高等学校教諭	とりまとめ責任者 調査地選定員 オリ根を含む県内全般
小 暮 市 郎	前橋高等学校教諭	調査地選定員 主に赤城山，榛名山関係
今 井 要	下仁田高等学校教諭	主に多野郡関係
片 野 光 一	太田高等学校大泉分校教諭	主に湿源，オリ根及び浅間山周辺関係
菊 地 慶四郎	高崎女子高等学校教諭	尾瀬関係

氏 名	所 属	分 担 分 野
津久井 芳 雄	桐生市菱中学校教諭	主に日光白根山周辺及び桐生市周辺関係
橋 本 達 夫	伊勢崎東高等学校教諭	主に草津本白根山関係
増 田 茂	渋川高等学校教諭	主に利根郡関係
松 沢 篤 郎	板倉町北小学校教頭	主に館林市・邑楽郡関係
近 藤 睦 夫	勢多農林高等学校教諭	主に草津白根山関係
松 本 幹 雄	前橋女子高等学校教諭	主に赤石山関係
茂 木 寿 男	松井田高等学校教諭	浅間隠山
11. 埼 玉		
永 野 巖	埼玉大学	総括責任者
永 戸 健	大東文化大学	分 担 者
大 垣 晃 一	浦和市立南高校	〃
消 水 誠	埼玉大学附属中学校	〃
田 隴 勝 己	埼玉県立小鹿野高校	〃
和 田 隆 則	大宮市立植竹中学校	〃
斉 藤 弥 吉	浦和市立田島中学校	〃
田地野 武 司	埼玉県立青少年野外活動センター	〃
内 藤 心 み	立教大学大学院	〃
加 藤 静 江	川越市立初雁中学校	〃
12. 千 葉		
沼 田 真	千葉県自然環境研究会，千葉大学理学部	総括責任者
福 嶋 司	千葉大学園芸学部	調 査 者
浅 野 貞 夫	泉自然公園事務所	〃
若 林 裕	銚子市立高校	〃
田 辺 盛 光	南総中学校	〃

氏 名	所 属	分 担 分 野
延 原 肇	習志野高校	調 査 者
岩 瀬 徹	千葉高校	〃
小 滝 一 夫	船橋高校	〃
新 山 恒 雄	千葉県立教員養成所	〃
藤 平 量 郎	木更津高校	〃
13. 東 京		
奥 富 清	東京農工大学農学部	総括責任者
曾 根 伸 典	日本植物友の会	現地調査・調査表作成
畦 上 能 力	八王子自然友の会	資料提供
菱 山 忠三郎	〃	〃
場 石 優		資料提供（調査表作成）
松 下 正 俊		〃 〃
辻 誠 治		〃 〃
松 崎 嘉 明		〃 〃
青 田 信		〃
14. 神奈川		
宮 脇 昭	横浜国立大学	総括責任者
佐々木 寧	〃	作業責任者
奥 田 重 俊	〃	丹沢地区責任者
弦 牧 久仁子	〃	調査協力者
箕 輪 降 一	〃	〃
片 桐 正 行	〃	〃
村 上 雄 秀	〃	〃
井 上 香世子	箱根町湿生花園	箱根地区責任者

氏 名	所 属	分 担 分 野
藤 間 熙 子	川崎市小倉小学校	川崎市地区責任者
藤 原 一 絵	横浜国立大学	調査協力者
原 田 洋	〃	〃
高 橋 勉	箱根町湿生花園	〃
15. 新 潟		
池 上 義 信	県立新潟南高等学校	総括責任者
石 沢 進	新潟大学理学部助教授	下越地区責任者
尾 崎 富 衛	県立新潟中央高等学校	〃
花 井 清 晴	県立村上高等学校	下越地区担当者
関 繁 男	県立新潟養護学校	〃
佐 藤 信 弥	県立村上櫻ヶ丘高等学校	〃
村 上 均	県立柏崎農業高等学校	〃
石 村 豪	北越農事 KK	〃
片 桐 義 昭		〃
和 田 久美子	新潟大学農学部助手	〃
斉 藤 昌 宏	〃	〃
竹 内 紀 夫	新潟大学理学部学生	〃
姫川原 宗 明	〃	〃
松 田 義 徳	〃	〃
佐々木 博 昭	〃	〃
柄 沢 明 暢	新潟大学農学部学生	〃
金 沢 至	新潟大学理学部学生	〃
佐 藤 隆 雄	〃	〃
相 沢 陽 一	中里村立貝野中学校	上越，中越地区責任者

氏 名	所 属	分 担 分 野
西 山 邦 夫	長岡市立科学博物館	中越地区責任者
松 井 浩	新潟県立教育センター	中越，下越地区担当者
瀬 沼 賢 一	小千谷市教育委員会	〃
関 省 吾	県立小千谷西高等学校	中越地区担当者
坪 谷 富 男		〃
布 施 公 幹	県立加茂高等学校	〃
阿 部 文 夫	柏崎市科学技術教育センター	中越地区担当者
今 井 徹 郎	西山町立二田中学校	〃
丸 山 一 郎	柏崎市立西中通中学校	〃
今 井 道太郎	柏崎工業高等学校	〃
田 辺 雄 一	柏崎市立大淵小学校	〃
品 田 博 道	柏崎市立第五中学校	〃
猪 俣 錦 治	柏崎市立第三中学校	〃
河 合 三喜雄	柏崎市立比角小学校	〃
高 橋 功 一	柏崎市立枇杷島小学校	〃
丸 山 吉 夫	県自然環境保全審議会専門調査員	上越地区責任者
山 本 敬 一	小千谷市立東小千谷小学校	上越地区担当者
加 藤 嶽 一	新潟県立教育センター	〃
池 田 昌 弘	上越市立城北中学校	〃
市 川 弘 幸	松代町立松代小学校	〃
牛 木 博	長岡市立宮内中学校	〃
高 橋 昭 夫	新潟県立新井高等学校	〃
古 沢 和 子	上越市立八千浦中学校	〃
山 岸 秀 夫	上越市立直江津中学校	〃

氏 名	所 属	分 担 分 野
小 島 紀 男	新井高等学校	上越地区担当者
藤 田 久	県立松代高等学校	〃
田 中 啓 子	上越市立城北中学校	〃
中 沢 正 泰	〃	〃
倉 石 正 久	糸魚川，西頸理科センター	〃
早 津 一 郎	東頸理科センター	〃
関 谷 昇	上越市理科センター	〃
長 尾 サ チ	妙高高原町立北小学校	〃
伊 藤 邦 男	県立佐渡女子高等学校	佐渡地区責任者
近 藤 治 隆	佐渡地区理科センター	佐渡地区担当者
16. 富 山		
大 田 弘	富山県植物友の会会長	総括責任者
小 路 登 一	富山県植物友の会理事	現地調査及びとりまとめ
長 井 真 隆	富山県植物友の会会員	〃
17. 石 川		
芦 原 孝 治	県立女子高校	17, 18, 25
梅 田 晃	金沢大学理学部学生	14, 22, 23, 56, 58, 69, 74, 101
江 口 元 章	〃 大学院々生	14, 22, 23, 56, 58
大 野 正 信	〃 理学部学生	1, 2, 3, 4, 13, 15, 29, 74
坂 井 典 一	柳田中学校	13
里 見 信 生	金沢大学理学部	総括責任者
四手井 英 一	白山自然保護センター	48, 49, 50, 51, 52, 53, 54, 55, 86, 91
寺 下 友三郎	小木中学校	2, 4, 15, 16, 17, 18, 25
中 川 泰 邦	県立泉丘高校	39, 41

氏 名	所 属	分 担 分 野
橋 本 清	金沢大学理学部学生	2, 4, 13, 14, 16, 22, 23, 29, 56, 58, 74
藤 田 喜 作	鳥越小学校	39, 41
本 田 郁 夫	県立泉丘高校	39, 41
松 岡 靖	金沢大学教養部学生	1, 3, 15
南 川 文 二	〃 理学部学生	69, 74, 101
美 馬 秀 夫	石川県環境部環境保全課	16, 24, 43, 80, 81, 86, 91
村 上 喬	〃	35, 36, 60, 64
安 田 信 夫	松任中学校	2, 4
和久田 昌 則	県立桜丘高校	17, 18, 25
18. 福 井		
香 室 昭 円	福井大学教育学部	総括責任者
石 本 昭 司	福井県立大野高等学校	
乾 昭 治	福井県教育研究所	
上 坂 正 夫	福井県立若狭高等学校	
北 川 博 正	勝山市立中部中学校	
小 林 則 夫	福井県教育研究所	
斉 藤 寛 昭	福井県立高志高等学校	
下 道 治 一	今立町立南越中学校	
竹 内 民 男	福井県教育庁指導課	
松 村 敬 二	福井県教育庁教職員課	
山 口 利 夫	大飯町中央公民館	
横 山 俊 一	福井大学教育学部	
渡 辺 定 路	福井県立武生高等学校	

氏 名	所 属	分 担 分 野
19 . 山 梨		
秋 山 樹 好	山梨生物同好会会長	総括責任者
篠 原 博	山梨生物同好会	東部担当班長
植 松 春 雄	須玉町江草小学校校長	副総括責任者， 西部担当班長
中 込 司 郎	山梨生物同好会	北部担当班長，事務担当
塚 田 正 勤	”	北部担当
浅 川 一 造	甲西町大明小学校教頭	西部担当
小 林 岳	山梨生物同好会	東部担当
笠 井 昇	都留文科大学職員	”
長 沢 幸 雄	白根町，八田村御勅使中学校教頭	西部担当
渡 辺 義 彦	南部町南部中学校教諭	南部班長
鈴 木 憲 仁	中道町，豊富村笛南中学校教諭	東部担当
秋 山 俊 雄	韮崎市北西小学校教諭	北部担当
大久保 栄 治	甲府市南中学校教諭	南部担当
山 田 一 郎	須玉町江草小学校教諭	北部担当
望 月 一 二	身延町身延中学校教諭	南部担当
原 忠 雄	山梨生物同好会	西部担当
20 . 長 野		
和 田 清	信州大学教育学部	総括責任者
伊 藤 静 夫	上水内内部鬼無里中学校	地域分担
小 林 規 甫	長野市更北中学校	”
堤 久	長野市信里小学校	”
中 山 冽	南佐久郡川上第二小学校	”
平 林 国 男	大町市山岳博物館	”

氏 名	所 属	分 担 分 野
松 山 行 雄	松本市菅野小学校	地域分担
山 崎 惇	横浜国立大学環境科学研究センター	"
八 幡 泰 平	北安曇郡白馬北小学校	"
横 内 文 人	松本市清水小学校	"
21. 岐 阜		
岩 田 悦 行	岐阜大学農学部，山地開発研究施設長，教授	総括責任者・湿原植物
安 藤 辰 夫	" " 講師	湿原植物
西 條 好 迪	" " 助手	"
加 藤 悟	岐阜大学大学院研究生	"
野 田 了 平	" 山地開発研究施設事務官	"
中 條 広 義	" 大学院生	"
長谷川 幹 夫	" "	"
八 木 毅	" "	"
大 内 幸 雄	" 助教授	照葉樹林
安 藤 利 道	" 大学院生	"
堀 勝 紀	" "	"
水 野 瑞 夫	岐阜薬科大学・植物生態研究施設長，助教授	特殊植物
田 中 俊 弘	" 助手	"
福 原 裕 子	" 大学院生	"
甲 谷 俊 彦	" "	"
山 田 雄 二	東海環境科学研究所	"
22. 静 岡		
近 田 文 弘	静岡大学理学部講師	総括・調査責任者
増 沢 武 弘	" 助手	調査責任者

氏 名	所 属	分 担 分 野
斉 藤 全 生	静岡県自然保護協会理事 (前静岡大学農学部教授)	調査責任者
草 加 伸 吾	静岡大学理学部学生	調 査 員
新 海 正	"	"
芝 田 博 昭	"	"
武 山 邦 彦	"	"
福 田 清 人	"	"
辻 正 幸	"	"
平 井 純	"	"
崎 尾 均	"	"
大 都 正 己	静岡県自然保護課	"
金 刺 佳 幌	"	"
23. 愛 知		
南 川 幸	名古屋市立保育短大	総括責任者
大 原 準之助	愛知県立岡崎高校	
落 合 圭 次	名古屋営林局	
倉 内 一 二	名古屋栄養短大	
24. 三 重		
武 田 明 正	三重大学農学部	総括責任者
葛 山 博 次	三重県立朝明高校	調 査 員
山 本 和 彦	三重県立四日市農芸高校	"
25. 滋 賀		
小 林 圭 介	滋賀県立短期大学	総括責任者
坪 居 直 行	彦根市立東中学校	責 任 者
村 瀬 忠 義	滋賀県立長浜高等学校	調 査 者

氏 名	所 属	分 担 分 野
柴 田 穰	彦根市立鳥居本中学校	調 査 者
村 長 昭 義	彦根市立南中学校	〃
村 上 宣 雄	木之本町立杉野中学校	〃
蓮 沼 修	滋賀県立比叡山自然教室	〃
武 田 信 夫	長浜市立西中学校	〃
白 井 重 樹	安曇川町立安曇川中学校	〃
関 川 雅 之	蒲生町立朝桜中学校	〃
吉 口 勝 郎	彦根市立東中学校	〃
太 田 明	滋賀県森林センター	〃
26 . 京 都		
田 端 英 雄	京都大学理学部	総括責任者
村 田 源	〃	植生調査
小 山 博 滋	〃	〃
藤 田 昇	〃	〃
土 屋 和 三	〃	〃
角 野 康 郎	〃	〃
片 山 雅 男	〃	〃
忠 津 哲 光	〃	〃
27 . 大 阪		
豊 原 稔	堺市立科学教育研究所	総括責任者
梅 田 隆 子	〃	植生調査及び報告書・資料作成
大 場 幾 太	帝塚山学院高等学校	植生調査
鎌 苅 修 蔵	大阪府立堺工業高等学校	〃
森 末 浩 充	堺市立上野芝中学校	〃

氏 名	所 属	分 担 分 野
28 . 兵 庫		
中 西 哲	神戸大学教授	総括責任者
武 田 義 明	" 助手	調査表作成及び現地調査
服 部 保	" 研究生	"
岸 本 浩	" "	現地調査
右 田 卓	" 学生	"
矢 野 悟 道	神戸女学院大学教授	"
竹 中 則 夫	" 助手	"
大 川 徹	神戸女学院中高部教諭	"
杉 田 隆 三	県立加古川東高等学校教諭	"
橋 本 光 政	県立姫路東高等学校教諭	"
29 . 奈 良		
菅 沼 孝 之	奈良女子大学助教授	全 般
辰 巳 博 史	樹原市立畝傍東小学校教諭	社寺林の植生調査
30 . 和歌山		
末 松 四 郎	和歌山大学名誉教授 理学博士	総括責任者
木 下 慶 二	和歌山県自然保護調査会理事	現地調査・文献調査
水 野 泰 邦	県立熊野高等学校教諭	"
滝 野 秀 二	県立新宮高等学校教諭	現地調査
山 元 晃	学文路中学校教諭	現地調査・文献調査
新 谷 育 生	明洋中学校教諭	"
31 . 鳥 取		
越 智 春 美	鳥取大学教育学部（教授）	総括責任者
清 水 寛 厚	" （助教授）	調査責任者

氏 名	所 属	分 担 分 野
鷺 見 寛 幸	鳥取大学教育学部(学生)	調 査 員
永 田 成 志	” ”	”
32. 島 根		
西 上 一 義	島根大学理学部	総括責任者
杵 村 喜 則	”	群落調査票作成等
丸 山 徹	自然保護研究会	植生調査表作成
有 田 宗 一	安来高校	”
下瀬瀬 敏	古江中学校	”
西 田 雄 行	教育センター	”
松 岡 秀 樹	島根大学理学部生物学研究室	”
森 山 京 子	”	”
矢 野 義 明	”	”
家 原 徳 郎	”	”
橋 谷 聡	”	”
竹 内 順 子	”	”
佐 藤 仁 志	環境保全課	”
33. 岡 山		
難 波 早 苗	津山科学教育博物館	総括責任者
中 原 清 士	岡山大学理学部	湿地以外の群落
西 原 礼之助	植物分類地理学会会員	”
波 田 善 夫	岡山理科大学生物学教室	湿地群落
藤 原 和 男	岡山県環境部自然保護課	湿地以外の群落
34. 広 島		
鈴 木 兵 二	広島大学理学部	総括責任者

氏 名	所 属	分 担 分 野
安 藤 久 次	広島大学理学部	天然記念物
関 太 郎	"	まとめ，一般
豊 原 源太郎	"	森 林
中 野 武 登	"	塩 沼 地
中 西 弘 樹	広島大学研究生	海岸，社叢
中 越 信 和	" 大学院生	森林，社叢
下 田 路 子	" "	湿 原
曾 我 茂 樹	" "	森 林
吉 野 由紀夫	" "	"
奥 田 敏 純	" 学生	"
石 橋 昇	" 学校教育学部	"
宮 城 康 一	琉球大学理工学部	森林・社叢
波 田 善 夫	岡山理科大学	湿 原
渡 部 泰 邦	広島市基町高等学校	森 林
宝 理 信 也	広島県立佐伯高等学校	社 叢
吉 川 知 之	広島県立府中高等学校	"
熊 井 吉 丸	広島県教育委員会	"
三 輪 明 男	広島県立林業試験場	森 林
池 田 作太郎	"	"
三 上 幸 三	新日本商事株式会社	一 般
佐 藤 文 雄	広島県自然保護課	総括審査
山 田 正 司	"	総括審査補佐
平 井 孝 司	"	調 整
金 井 邦 彰	"	取りまとめ

氏 名	所 属	分 担 分 野
35 . 山 口		
岡 国 夫	宇部短期大学	総括責任者，調査票等作成
勝 本 謙	山口大学農学部	調査票等作成
真 崎 博	下松市立末武中学校	〃
見 明 長 門	阿東町立德佐中学校	〃
三 宅 貞 敏	県立山口博物館	〃
36 . 徳 島		
阿 部 近 一	阿波学会	総括責任者
森 本 康 滋	徳島県立城南高校	現地調査・総括補助
石 井 義	徳島大学教育学部	現地調査
木 下 覚	里浦小学校	〃
木 内 和 美	牟岐中学校	〃
友 成 孟 宏	吉野中学校	〃
(故)加藤 芳一	南部中学校	〃
37 . 香 川		
高 橋 良 平	香川大学教育学部生物学教室	総括，小豆郡，高松市， 香川郡調査
氏 家 由 三	香川県文化財保護審議会委員	大川郡，木田郡調査責任者
和 気 俊 郎	香川県大手前高等学校（丸亀）	丸亀市，坂出市，善通寺市， 観音寺市，綾歌郡，三豊郡， 仲多度郡調査責任者
片 本 毅	香川県立小豆島高等学校	小豆郡調査責任者
新 居 正 敏	綾歌町立綾歌中学校	丸亀市，坂出市，善通寺市， 観音寺市，綾歌郡，仲多度 郡，三豊郡調査
藤 原 滝 雄	高松市立玉藻中学校	小豆郡，高松市，大川郡 調査
末 広 喜代一	香川大学教育学部生物学教室	高松市，香川郡，大川郡調 査責任者

氏 名	所 属	分 担 分 野
38. 愛 媛		
山 本 四 郎	今治明德短期大学	総括責任者 (愛媛県中部, 南部) 愛媛県東部 愛媛県中部, 南部 " "
石 川 早 雄	新居浜市立荻小学校	
須 山 修 光	松山市立城東中学校	
中 本 司	松山市立津田中学校	
藤 田 幹 雄	愛媛県立今治北高等学校	
松 井 宏 光	松山東雲短期大学	
39. 高 知		
山 中 二 男	高知大学教育学部	総括責任者
40. 福 岡		
尼 川 大 録	中村学園大学教授	調査責任者 調 査 者 " " " " " " " " " " " " "
神 野 展 光	福岡教育大学助教授	
大 内 準	九州大学教養部非常勤講師	
小 村 精	福岡県衛生公害センター専門研究員	
猪 上 信 義	福岡県林業試験場研究員	
荒 木 幸 男	福岡県立田川東高等学校教諭	
熊 谷 信 孝	福岡県立田川高等学校	
神 崎 巍	福岡県立戸畑高等学校教諭	
西 原 幸 男	福岡県立新宮高等学校教諭	
冷 川 昌 彦	福岡大学附属大濠高等学校教諭	
広 田 義 明	福岡県立戸畑中央高等学校教諭	
三 谷 敏 彦	福岡県立築上西高等学校教諭	
吉 田 博 一	福岡県立福岡高等学校教諭	
若 宮 義 次	福岡県立糸島高等学校講師	

氏 名	所 属	分 担 分 野
太 川 浩 平	甘木市立秋月中学校教諭	調 査 者
益 村 聖	筑後市立羽犬塚中学校教諭	〃
畑 中 健 一	北九州大学教授	協 力 者
安 田 喜一郎	福岡県立糸島農業高等学校教諭	〃
梶 原 誠	芦屋町立芦屋中学校教諭	〃
広 川 恵 美	福岡県立福岡高等学校助手	〃
杉 泰 昭	福岡県衛生公害センター専門研究員	〃
村 田 敦 子	〃 主任技師	〃
上 原 直 彦	福岡県衛生部環境整備局自然保護課長	総括責任者
41. 佐 賀		
須 古 将 宏	佐賀植物友の会	総括責任者
馬 場 胤 義	〃	〃
江 島 龍 也	〃	主として県東部調査
井 上 英 幸	〃	〃
北 村 好 行	〃	〃
貞 松 光 男	〃	主として県中央部調査
川 浪 誠	〃	〃
倉 成 靖 任	〃	〃
岩 村 政 浩	〃	主として県西部調査
小 池 英 毅	〃	〃
庭 木 信 昌	〃	〃
42. 長 崎		
伊 藤 秀 三	長崎大学教育学部	総括責任者・調査担当者 (壱岐対馬・平戸地区)
川 里 弘 孝	長崎県自然保護課	総括補佐者・調査担当者 (壱岐対馬・平戸地区)

氏 名	所 属	分 担 分 野
堀 田 浩	長崎県立島原高等学校	調査担当者 (県南地区責任者)
今 岡 恵 吾	長崎県立長崎北高等学校	調査担当者 (五島地区責任者)
中 西 こずえ	長崎大学教養部	調査担当者 (五島地区)
中 村 隆 一	長崎県立長崎南高等学校	(調査担当者 (県央地区責任者)
都 地 啓 介	"	調査担当者 (県央地区)
花 岡 哲	"	" "
萩 原 清 成	"	" "
喜 瀬 範 章	長崎県教育センター	" "
43 . 熊 本		
宮 田 逸 夫	熊本商科大学教授	総括責任者・植物生態学
今 江 正 知	熊本大学助教授	植物分類学
山 城 学	熊本記念植物採集会会長	"
東 矢 力 也	熊本県立大津高等学校教諭	植 物
村 岡 節 雄	尚綱学園尚綱高等学校教諭	"
吉 田 喜久子	"	"
河 上 昭 夫	熊本県立松橋高等学校教諭	"
佐 藤 千 芳	熊本商科大学付属高等学校教諭	"
原 賀 良 久	熊本県自然保護課	記 録
大 塚 昭 典	"	"
片 岡 楯 夫	"	"
内 田 安 弘	"	"
黒 田 祐 市	"	"
44 . 大 分		
生 野 喜和人	大分県環境管理課	総括責任者 調査全般・まとめ

氏 名	所 属	分 担 分 野
荒 金 正 憲	別府市立北部中学校	調査全般
阿 部 泰 雄	大分市立王子中学校	"
小 川 毅	別府市立青山小学校	"
大 上 和 宏	大分市立明野北小学校	"
藤 内 広 三	別府市立南小学校	"
45. 宮 崎		
中 山 至 大	宮崎大学教育学部	総括責任者
荒 木 徳 蔵	宮崎県総合博物館	植生調査と調査票の記入
金 丸 文 昭	"	"
南 谷 忠 志	宮崎県立小林高等学校	"
斉 藤 政 美	宮崎県立宮崎農業高等学校	"
河 野 耕 三	宮崎県立延岡第二高等学校	"
駒 田 勤	宮崎県森林組合連合会	"
46. 鹿 児 島		
大 野 照 好	鹿児島県自然愛護協会（鹿児島短期大学）	種子島，屋久島分 とりまとめ
楠 元 司	"（鹿児島大学教育学部）	県本土分とりまとめ
迫 静 男	"（" 農学部）	トカラ列島，奄美群島，高 隈山系分とりまとめ
新 敏 夫	"（" 教養部）	カワゴケソウ科植物分 とりまとめ
田 川 日出夫	"（" "）	甑島列島，県本土分とり まとめ及び総括
山 根 銀五郎	"（" 名誉教授）	県本土分とりまとめ
大 迫 康	鹿児島大学生	現地調査補助
寺 田 仁 志	鹿児島県立西高校教諭	"
中 村 健 次	鹿児島大学研究生	"
中 村 英 行	鹿児島大学生	"

氏 名	所 属	分 担 分 野
深 川 伸 一	鹿児島大学生	現地調査補助
宮 田 一 馬	鹿児島大学大学院生	"
森 田 康 夫	"	"
横 山 陽 一	鹿児島大学生	"
中 平 廣 夫	鹿児島県職員	追補分まとめ
47 . 沖 縄		
新 納 義 馬	琉球大学教育学部	総括責任者
新 城 和 治	"	調査並びに資料まとめ
宮 城 康 一	琉球大学理工学部	"
川 上 勲	沖縄県立宮古高等学校	現地調査担当
島 袋 眩	沖縄県立読谷高等学校	"
大 神 一 宏	琉球大学理工学部	"
与世田 京 子	琉球大学教育学部	資料整理
上 地 恵 子	"	"
川 平 悦 子	"	"
平 林 久 美	"	"

3 . 第 2 回自然環境保全基礎調査特定植物群落調査要綱 特 定 植 物 群 落 調 査 要 綱

1 調査の目的

わが国における植物群落のうちで学術上重要なもの，保護を必要とするものなどの生育地及び生育状況について調査する。

2 調査実施者

国が都道府県に委託して実施する。

3 調査対象地域

全国 47 都道府県全域について調査する。

4 調査実施期間

契約締結の日から昭和 54 年 3 月 31 日までとする。

5 調査内容

(1) 調査の対象とする植物群落は，別紙 1 「調査対象植物群落選定要領」により選定する。

(2) 調査事項は次のとおりとする。

ア 植物群落の位置，面積

イ 植物群落の概要

ウ 保存の状況

エ 保護の現状

オ 保護管理に関する所見

6 調査方法

昭和 48 年度に実施した第 1 回自然環境保全基礎調査による植生図，すぐれた自然図及び空中写真等を参考にしながら，既存資料その他知見の収集を行い，必要に応じて現地調査を行う等して調査を実施する。

7 調査結果のとりまとめ

受託者は調査結果を下記の図票にとりまとめる。

(1) 特定植物群落生育地図

特定植物群落の生育地は，別紙 2 「特定植物群落生育地図」(以下「生育地図」

という。)にならい国土地理院発行の5万分の1地形図に表示する。

(2) 特定植物群落調査票

調査した事項は、別紙3「特定植物群落調査票」(以下「調査票」という。)にとりまとめるものとし、調査票には、原則として代表的な地点における植生調査表(表2の様式による)を添付する。

8 調査結果の報告

受託者は、調査結果をとりまとめ、報告書150部、報告書付属資料1部及び生育地図帳1部を、それぞれ別紙4「報告書作成要領」、別紙5「特定植物群落生育地図帳作成要領」により作成し、昭和54年3月31日までに、環境庁自然保護局長あて提出する。

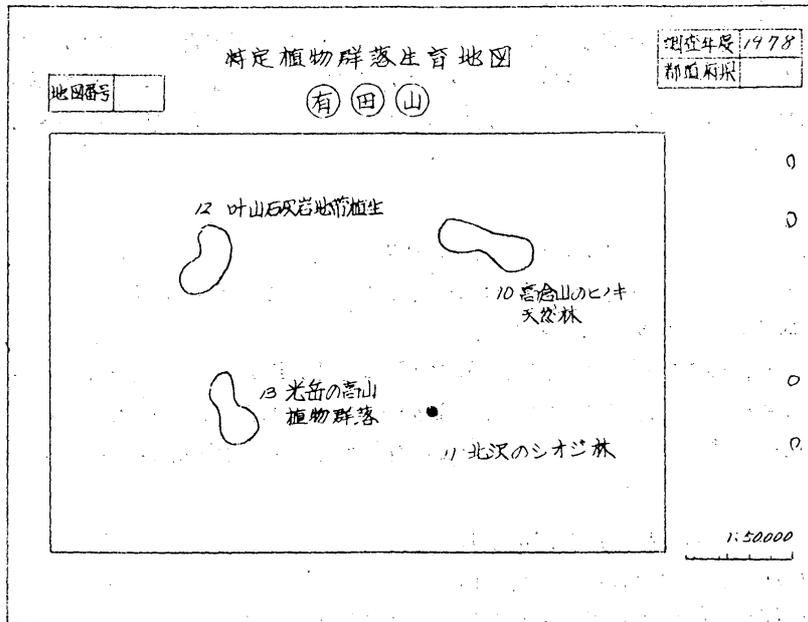
<別紙1> 調査対象植物群落選定要領

- 1 調査対象とする植物群落は、群落の面積の大小にかかわらず表1「特定植物群落選定基準」に該当するものとする。
- 2 第1回自然環境保全基礎調査(環境庁)及びIBPのJCT(P)ハンドブック(2)等を参考にしつつ、自然公園、自然環境保全地域等及びこれらの候補地に含まれるものを落とすことのないように注意し、都道府県ごとに植物群落を選定する。

<表1> 特定植物群落選定基準

- A 原生林もしくはそれに近い自然林
(特に照葉樹林についてはもれのないように注意すること)
- B 国内若干地域に分布するが、極めて稀な植物群落または個体群
- C 比較的普通に見られるものであっても、南限、北限、隔離分布等分布限界になる産地に見られる植物群落または個体群
- D 砂丘、断崖地、塩沼地、湖沼、河川、湿地、高山、石灰岩地等の特殊な立地に特有な植物群落または個体群で、その群落の特徴が典型的なもの(特に湿原についてはもれのないように注意すること。)
- E 郷土景観を代表する植物群落で、特にその群落の特徴が典型的なもの(武蔵野の雑木林、社寺林等)
- F 過去において人工的に植栽されたことが明らかな森林であっても、長期にわたって伐採等の手が入っていないもの
- G 乱獲その他人為の影響によって、当該都道府県内で極端に少なくなるおそれのある植物群落または個体群
- H その他、学術上重要な植物群落または個体群

生育地図例



(生育地図作成上の注意)

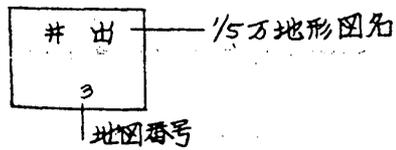
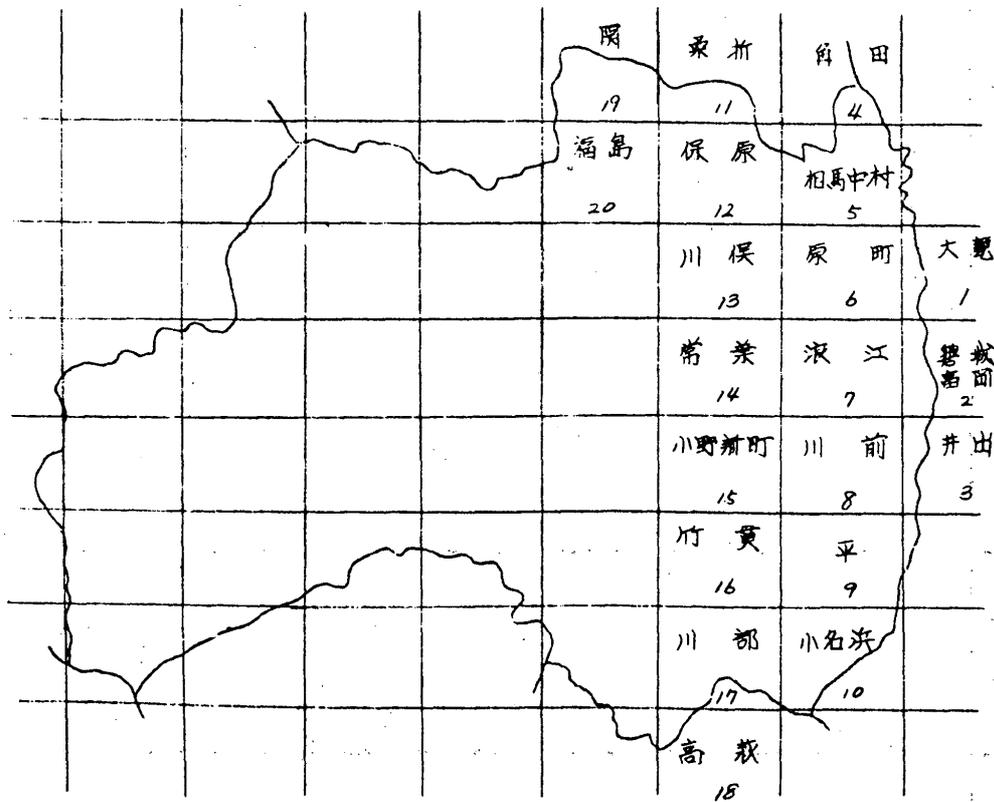
- 1 生育地図には、必ず国土地理院発行の5万分の1地形図を使用する。複写図、編さん図等は使用しないこと。
- 2 5万分の1地形図には、都道府県単位で東側から、北から南へ「地図番号」を打つ。(4ページ図 - 1 (以下「地図番号図」という)参照)
- 3 調査の結果、植物群落の生育地が表示されていない地形図が出てきた場合も、当該都道府県にかかわりのある地形図はすべて提出することとし、4の作業はすべての地形図について行う。
- 4 生育地図例のように、地形図の余白の所定の位置に「タイトル」、「地図番号」、「調査年度」(西暦)、「都道府県名」を黒インクで記入する。
- 5 対象群落の生育地を黒線でくくり、その位置を示すとともに、調査票と対照できるように対照番号と件名を記入する。くくり線は、巾0.5 mm程度の黒線で

引くものとし、生育地が小さくて黒線でくくれない場合は、小黑丸(・)で表示する。

6 対照番号は、各都道府県ごとに通し番号とし、地図番号の若い生育地図から順次生育地ごとに付す。

7 生育地が2枚以上の地形図にわたる場合は、対照番号と件名は同一のものとし、それらに関係するすべての地形図に記入する。

図 - 1 地図番号図 (例 福島県)



<別紙 3 >

取 扱		特 定 植 物 群 落 調 査 票			調査年度	1978
					都道府県	
対照番号	地図番号	1/5万地形図	件 名		選 定 基 準	
位 置			所 在 市 町 村		標 高	面 積
			市	町	(m)	(ha)
			郡	村		
内 容						
保護の現状						
技術的 管理に 関する 見						
資料の 種類	現地調査	文 献				
	文献					
調査所	調査者 氏 名	調査者 氏 名				

B-5 11049

(調査票記入上の注意)

- 1 調査票の様式は、前頁に掲げるものとし、用紙は 110Kg 程度、B5 版、左側 2 つ穴あきとする。
- 2 1 件 (1 生育地) につき調査票は 1 枚とする。
- 3 調査票には、原則として代表的な地点における植生調査表を表 2 の様式に従って 1 ヶ所以上添付する。生育地が 2 以上の植物群落から構成されている場合は、植物群落ごとに植生調査表を添付する。ただし草本植生の場合は、代表的な植物群落についての植生調査表を添付すればよい。
当該生育地における植生調査表が過去 5 年以内のものであれば、それを添付してさしつかえない。
- 4 「調査年度」(西暦)、「都道府県」には、それぞれ該当のものを記入する。
- 5 「取扱」には、公表することにより乱獲のおそれがある等、その植物群落の生育地の公表が不都合な場合、赤字で秘と記入する。
- 6 「対照番号」「地図番号」「5 万分の 1 地形図」には、生育地図と対照できるようにそれぞれ該当するものを記入する。
- 7 「件名」には、その植物群落の具体的名称を、例えば「朝日岳の蛇紋岩地帯植生」、「高倉山のヒノキ天然林」などになるべく、所在地名と組み合わせわかりやすいものとして記入する。
- 8 「選定基準」には、その植物群落が対象として選定された理由を、表 1「特定植物群落選定基準」から選んで記入する。2 つ以上の理由がある場合も、そのすべてを記入する。
- 9 「位置」には、例えば、「朝日岳頂上付近」「高倉山北斜面のブナ林地帯の中」などのようにその生育地を「件名」に記入した地名より詳しく記入する。
- 10 「所在市町村」には、その生育地が属する市郡、町村を記入する。生育地が 2 以上の市町村にわたる場合は、主たる生育地の属する市町村名を記入する。
- 11 「標高」には、生育地のおおよその標高を 10m 単位で記入し、幅がある場合は適宜「700~950m」のように記入する。
- 12 「面積」には、生育地のおおよその面積を記入する。
- 13 「内容」には、生育地の位置の詳細、その植物群落の概要(主な構成要素、群落高、上層の植被率等)、その植物群落の分布の特徴、保存の状況等を具体的に記入する。人工林の場合はおおよその樹令を必ず記入する。

また、1 団地が 2 以上の群落から構成されている生育地の場合は、植物群落ごとにその植物群落の概要を記入する。ただし、草本植生の場合は、代表的な植物群落についてのみその概要を記入すればよい。

なお、調査票の「内容」欄に記入しきれない場合は、(裏面につづく)として調査票裏面に記入する。

(例1) 櫛原のシオジ林

出原郡寺田村山本の通称櫛原と呼ばれる新津川支流北沢の標高 800m 付近に、シオジの原生林が生育する。シオジの純林に近く、一部カツラが混生し、亜高木層には、チドリノキ、オオバアサガラ等、林床にはタマアジサイ、キツリフネ、レンゲシヨウマ、シノブカグマ等が生育する。

上層の植被率は 90%ほどで、群落高は約 25m である。シオジの純林は、本県でもここだけであり、全国的にも珍しく、石灰岩地帯の指標となっている。

また、周辺のブナ林とともに非常によく自然の状態が保存されている。

(例2) 船形山原生林

当地域は、宮城県西端を南北に走る奥羽山脈の中央部に位置している船形山(標高 1,500m)を中心とする地域で、積雪の極めて多い地域である。

1,350m 以上の亜高山地帯には、アオモリトドマツなどの針葉樹帯が発達せず、ミヤマナラやミネカエデなどからなる落葉低木林が存在している。また、これより下にはブナ林が発達しており、特にこの地域の北部では美事な林が残存している。しかし、この場所も近年急速に伐採が進められている。

1 ミヤマナラ低木林

主な構成要素, 群落高, ……

2 ブナ林

主な構成要素, 群落高, 上層の植被率,

……

3 林

……

14 「保護の現状」には、自然公園及び自然環境保全地域等の指定、天然記念物の指定等、当該植物ないし植物群落または、当該生育地に関して現在とられている保護対策について記入する。

15 「保護管理に関する技術的所見」には、当該植物ないし植物群落または当該生育地の保護管理について技術的所見があれば記入する。

16 「資料の種類」には、当該調査票が現地調査によって作成されたものか、文献によったものかの区別を該当するものを で囲んで示す。

17 「文献」には、当該調査票が文献によって作成されたものの場合、文献番号、筆者名、発行年(西暦)を記入する。

18 「調査者」には、当該調査票作成者の所属、氏名を記入する。

<表2> 植生調査表
(記入例)

植 生 調 査 表

対照番号 12 | 件名 入丁杉のケヤキ林 図幅 1:5万 大村 上(右) 下(左)
 調査地 長崎県大村郡黒木町入丁杉 (風当) 強・中・弱 (海拔) 590m
 (地形) 山頂 尾根: (斜面) 上・中・下 凸(凹) 谷・平地 (日当) 陽・(半)陰・陰 (方位) N30°W
 (土壌) ポド性・褐森・赤・黄・黄褐森・アド・グライ (土湿) 乾・(適) 湿・過湿 (傾斜) 35°
 擬グライ・沼沢・沖積・高温草・非固岩質(固岩質)・水面下 (面積) 10 X 15 m²
 (階層) (侵入種) (高さm) (樹被率%) (樹径cm) (種数) (備考) (出現種数) 26
 I 高木層 14~ 70 40~60cm
 II 亜高木層 8~ 30 10~20cm
 III 低木層 2~ 10
 IV 草本層 ~ 10
 V コケ層 ~

地表に 礫多し
調査
流水あり

(群落名) 1978年8月10日 調査者

S	D.S.V	SPP.	S	D.S.V	SPP	S	D.S.V	SPP
1	I 2.3	ケヤキ	III	+ 2	ヤブニツケイ	IV	+ fl	モミジカサ
2	1.2	ホソバタフ	1.2		シキミ	+		ジユウモンジシ
3	3.3	ミズキ	+ fl		ウリノキ	+		シラキ K ₂
4			+		ガクウツキ*	+ 2		ヤマムラサキ
5			+ fl		ハナイカタ	+		イヌガヤ
6			+ 2		ヤマアジサイ	+		カヤ
7			+		ミズキ	1.1 fl		オオカネノカシ
8						+		タイモンジソウ
9						+		シケクシタ*
10						+ 2		クサアジサイ
11	II 2.2	ヤブニツケイ				+		イノテモドキ
12	+	イヌガヤ				+		ナツズタ
13	+	ヤブツバキ				+		ケヤキ K ₂
14	1.1	イタヤカエデ*				(+)		キバナアキギリ
15	1.2	シキミ						
16	+	カヤ						
17	1.1	イヌガシ						
18	+	エコノキ						
19	+	ホソバタフ						
20								
21								
22								
23								
24								
25								
26								
27								
28								
29								
30								

<表 2 > 様式

植 生 調 査 表

No.	凡例名 (群落名)			図幅 1:5万	上右 下左
調査地	都道 府県	市 郡	町 村	(海拔)	m
(地形) 山 頂:尾・根:斜 面:上・中・下・凸・凹:谷:平地				(風当) 強・中・弱	(方位)
(土壌) ボト性・褐森・赤・黄・黄褐森・アンド・グライ・擬グライ・				(日当) 陽・中陰・陰	(傾斜)
沼沢・沖積・高湿草・非固岩屑・固岩屑・水面下・その他()				(土湿) 乾・適・湿・過湿	(面積) × m ²
(階 層)	(優占種)	(高さm)	(植被率%)	(胸径cm)	(種数)
T ₁ 高木層	~	~	~	~	(備 考)
T ₂ 亜高木層	~	~	~	~	
S 低木層	~	~	~	~	
H 草本層	~	~	~	~	
M コケ層	~	~	~	~	

年 月 日 調査者

	S	D-S V	SPP.	S	D-S V	SPP.	S	D-S V	SPP.
	1								
2									
3									
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									
22									
23									
24									
25									
26									
27									
28									
29									
30									

B5 45kg

(植生調査表記入上の注意)

- 1 対照番号，件名：特定植物群落調査票と対照できるように該当のものを記入する。
- 2 調査地：府県，市，町村名は必ず記入し，加えて字，河川，沢，山地名などの記入は5万分の1地形図上の名称をなるべく採用する。
- 3 図幅：5万分の1地形図名を記入する。なお調査地の位置を明らかにするため地形図を右のように4等分して該当する上下左右の箇所を で囲む。

上左	上右
下左	下右
- 4 海拔：近くの三角点，水準点，独標点などで更正した携帯用高度計で測定する。やむをえない場合は5万分の1地形図上で推定する。10mのケタまで記入する。
- 5 方位：調査区が面している方向をクリノメータで測定し，N22°Wのように記入し，NNWという表現はできるだけさける。
- 6 傾斜：調査区斜面のほぼ平均とみられるところをクリノメータで測定する。
- 7 面積：縦×横mで表現する。調査区的面積は少なくとも最小面積の2倍以上の面積をとることがのぞましい。
- 8 出現種数：各層の種数の和から2つ以上の階層に出現する種類の重複分を差引いたものを記入する。
- 9 地形：調査区的位置する地形区分を で囲む。斜面上にある場合は斜面主方向にそって上中下区分と凸凹別で表現する（凸凹のない場合は凸凹チェックなしとする）。傾斜5°以下である程度広がりをもつ場合は平地とするが，谷底平地とは区別すること。

谷底平地は谷と平地をダブルチェックして表わす。
- 10 土壌：該当する土壌型名を で囲む。調査表内の略称はつぎの土壌型を現わしている。ポド性 ポドゾール性土，褐森 褐色森林土，赤 赤色土，黄 黄色土，黄褐森 黄褐色森林土，アンド 火山灰土壌（黒色土壌），グライ グライ土，擬グライ 擬グライ土，沼沢 沼沢土，沖積 沖積土，高湿草 高山湿草地土，非固岩屑 非固結岩屑土，固岩屑 固結岩屑土，水面下 水面下土壌。
- 11 風当・日当：調査区をとりまく地形的特徴に注意し，遮蔽物の有無や樹形の変化などにも留意してチェックする（ で囲む）。
- 12 土湿：乾とは土塊をにぎって湿りを感じない場合，適とは湿りを感じ，湿と

は水が出るがたれない，適湿とは水がしたたる場合，としてチェックする。

- 13 階層：独立または比較的独立した植物層（葉群層）を一つの階層とし，自然の階層を映し出すように把握する。森林の場合階層は基本的には 高木層， 亜高木層， 低木層， 草本層， コケ層の5層に分かつ。低木層及び草本層が更に細分可能の場合は各々に第1第2または - 1， - 2， - 1， - 2を区分して記入する。そのため， には余白を設けてある。草本の場合には草本層は上層と下層に分けられる。その他の区分を必要とする場合には適宜工夫する。低木林の調査では高木層と亜高木層の欄は空白となる。
- 14 優占種：各階層の優占種の植物名を記入する。同一の階層に優占種が複数のときは少なくとも二種類を記入する。
- 15 高さ：各階層の葉群層の上限と下限の高さを記入する。例えば8～15mのように上限は～の右側に書く。コケ層は上限だけで足りる。
- 16 植被率：各階層毎の植被率（種類別の被度ではなくその階層全体としての植物被覆の割合）を百分率で判定して記入する。
- 17 胸径：胸高直径は高木層および亜高木層に限り，各層の最大胸高直径のもののみを測定して記入する。個々の樹木は毎木調査（調査表裏面）で測定する。
- 18 種数：組成表から数えだして各階層ごとに記入する。したがって各層で同じ種類（例えば高木性の種など）が重複して数えられることもある。
- 19 群落名：高木層の優占種と低木層（または草本層）の優占種とをハイフンでつないであらわすのが望ましい。例えばブナ チシマザサ群落，またはブナ チシマザサ ミヤマカンスゲ群落などとなる（略してもよい）。
- 20 調査者：直接調査を行った人をもれなく記入することがのぞましい。責任者には 印をつけておくこと。
- 21 組成表について：調査区内の種類組成，階層，優占度または被度，群度，活力度および芽生えについて記入する。表中のS欄は階層，D・S欄は優占度または被度と群度，V欄は活力度，SPP欄は種名をそれぞれ記入する。記入の要領はつぎの通りである。

（S）階層： ， ， - 1， - 2， ， のようにし，種類のリストは（高木層）からはじめて順次下層にいたる。

（D・S）優占度または被度と群度：種の優占の度合を判定するには下記のBraun-Blanquet法による優占度 被度と数度（推定的個体数）の組み合わせによる測定法を用いる。

rごくまれに出現

+少数で被度は非常に低い

1多数だが被度は低い,あるいはかなり少数だが被度はやや高い

2非常に多数(ただし被度は1/10以下)あるいは被度が1/10~1/4(ただし個体数は任意)

3被度が1/4~1/2で個体数は任意

4被度が1/2~3/4で個体数は任意

5被度が3/4以上で個体数は任意

また群度はつぎの記号で記入する。

1単生する

2群状または叢状に生育する

3班状に生育する(小班あるいはクッション)

4小さいコロニーをつくって生育するか,あるいはまた大班かじゅうた
んを形成する

5大群をなす

この(D・S)欄の記載にあたっては優占度(または被度)を先にし群度を
つぎに記す。例えば4・2のようにする。+・1の場合は単に+とのみする。
高木層を占める種の群度については調査区外をも概観して評価する。例えば全
山がブナでおおわれているがたまたま調査区内にブナが1本である場合は5・1
とせず,5・5とする。

() 活力度と芽生え: 群落内における種個体の生活力により重点をおいた
Ellenberg や Knapp の方式にしたがいつぎの記号で記す(略してもよい)

.....極めて生育不良でほとんど果実や種子を生じない

.....生育不良

無印.....生育普通

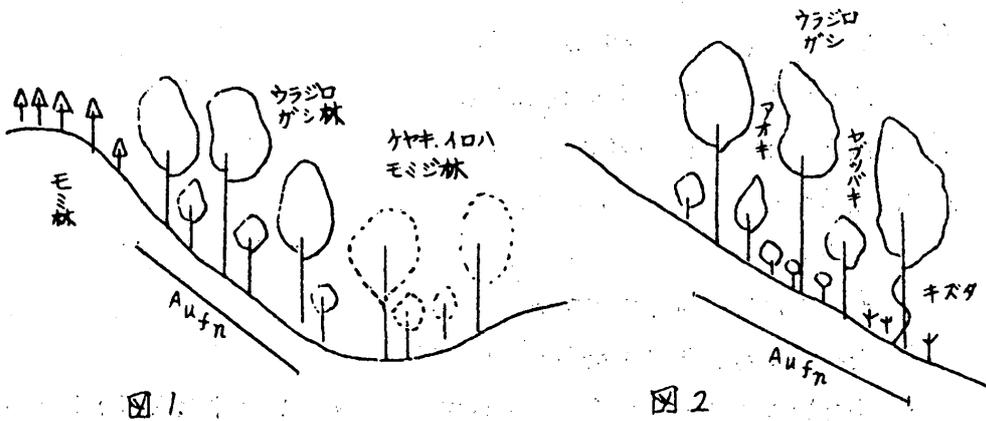
なお,芽生えである場合にはこの欄にKの記号を記す。また開花している
(fl),果実や種子をつけている(fr)場合にも,それぞれの記号をこの欄に記
しておく。

22 植生断面図: 植生調査を実際に行なわれた植分と,その立地条件との関係を
具体的に表現する手段として植生断面の図化は重要である。また地形に対応し
た群落構造とその配分を概観する手がかりとなる。

したがって,図化には地形に対応した群落配分図(図1)と,具体的な対象

植分自体の群落断面（図2）の2通り画く（おもてに空白がない場合には裏面に画く。）

〔例〕



4 . 第 2 回自然環境保全基礎調査特定植物群落調査集計 整理作業実施要領

1 . 業務の目的

第 2 回自然環境保全基礎調査要綱に基づき昭和 53 年度に実施された特定植物群落調査結果を整理し、各種集計や分布メッシュ図の作成、特定植物群落の状況について考察する。

2 . 業務実施者及び業務実施場所

この業務は、国が株式会社プレック研究所に委託して実施するものとし、業務の実施場所は同社内とする。

3 . 業務の内容

(1) 特定植物群落の分類・整理

環境庁が貸与する特定植物群落調査報告書の特定植物群落調査票及び植生調査表の記載内容から次の項目に係る用語又は表現を摘出し、類型化を行う。

ア 件名(地名を除いたもの)

同義語(ex. ブナ林、ブナの天然林、ブナの自然林 etc) のグルーピング

イ 立地

同義語のグルーピング

ウ 保護に関する所見等

保存状態、インパクトの種類、必要な対策等

エ 相観

アを相観レベルにグルーピングする。

(2) 報告書及び生育地図の点検、情報の追加修正

報告書及び生育地図について次の事項を点検し、必要に応じて情報の追加修正を行う。

ア 保護の現状欄

自然公園、保全地域

当庁の貸与する自然公園、保全地域図と生育地図を対照し、記載内容

に誤りがないか点検する。

天然記念物等

当庁の貸与する天然記念物リストと対照し、記載内容に誤りがないか点検する。

イ 群落名

調査表の内容より環境庁の植生凡例一覧表に示す群落名との対応関係を明らかにし（群団レベル）該当するコード番号を付す。

ウ 生育地図上のくくり及び面積

生育地図を点検し、大地域的なくくり方によるものを抽出し細区分を検討する。またくくり線の特定の場所のみが実際の生育地である場合にはこれを他と区別する。

エ その他

その他記載漏れや誤記について点検し、訂正する。

(3) 既存類似調査との対照

特定植物群落調査の結果を第1回自然環境保全基礎調査（すぐれた自然の調査）IBP-CT(P)リスト及び天然記念物緊急調査の結果と対照し、すぐれた自然の調査等には含まれるが、本調査では選定されなかった群落についてはその理由を明らかにする。

(4) 特定植物群落生育地の数値情報化

特定植物群落生育地図上の生育地を含む標準メッシュのコード番号を読みとる。

(5) 特定植物群落関連情報の整理

(2)の作業により点検、訂正、情報の追加等を行った報告書の諸情報をコーディングシートに整理する。

コーディングシートに記入すべき情報は次の項目とする。

ア 特定植物群落番号（県コード＋対照番号）

イ 件名（カタカナでそのまま類似化した件名）

ウ 相観

エ 立地

- オ その他群落の概要
- カ 所在地（都道府県、市町村）
- キ 標高
- ク 面積
- ケ 保存状態
- コ 保護の現状
- サ 類似調査における選定状況
- シ 第3次メッシュコード
- ス 取扱い
- セ 選定基準

(6) 特定植物群落関連情報の処理

コーディングシートに記入された特定植物群落に関する情報を磁気テープ等に収納するとともに、入力した内容をすべてプルーフリストに出力する。

(7) 磁気テープ内容の点検

磁気テープに情報が正しく収納されたかどうかについて点検する。

(8) 特定植物群落分布メッシュ図等の作成

上記により作成された磁気テープをもとに群落（ブナ林、照葉樹林、高層（中・低層）湿原 etc.）の分布メッシュ図（1 / 250 万程度）を作成するとともに、次に示す図表を電算機により打出す。

ア 都道府県別及び地方ブロック別各種群落個所数及びメッシュ数集計

イ 自然公園保全地域別各種群落個所数

ウ 各種群落ごとの面積度数分布

エ 各種群落ごとの生育状態（良好、普通、不良、絶滅）別個所数、メッシュ数

オ 各種群落ごとのインパクトの種類及び件数

カ 相観別特定植物群落リスト

キ 立地別 " "

ク 所在地別 " "

ケ 保護対策別 " "

} 件名は（漢字まじり表記とし）手作業により入れる。
（県別報告書の索引をかねる）

(9) 特定植物群落の分布状況等に関する考察

特定植物群落として選定された各種群落について分布メッシュ図、上記図表及び各種資料をもとに、分布状況、生育状態等について考察する。

4 . 業務の実施方法

(1) 進捗状況の報告

受託者は、作業の進捗状況について環境庁担当官に定期的に(月1回程度)報告するものとし、さらに各作業ステップの完了時には作業に支障のない範囲で成果品等の提示を行い、指示を受けること。

(2) マイクロフィルムの作成

作業に使用する分布図(1/5万)原図の破損、紛失を防止するため、予めマイクロフィルムを作成し保管しておくものとする。

5 . 業務の実施期間

この業務は、昭和56年3月31日までの間に行うものとする。

6 . 報告

受託者は業務の結果を次によりとりまとめ、昭和56年3月31日までに支出負担行為担当官 環境庁自然保護局長あて提出するものとする。

(1) 報告書 200部(別紙要領による)

(2) 特定植物群落関連情報磁気テープ 1式

(3) 分布メッシュ図 1/250万 1式

(4) ブループリント

(5) マイクロフィルム 1式

5 . 群落コード一覧表

(1) 寒帯・高山帯自然植生

群落コード	自然度	群 落 名
101	9	高山低木群落
	9	(1) コケモモ ハイマツ群集
	9	(2) ミネヤナギ群落(ミネヤナギ キツネヤナギ群落を含む)
102	10	高山ハイデ及び風衝草原
	10	(1) コメバツガザクラ ミネズオウ群集
	10	(2) オヤマノエンドウ ヒゲハリスゲ群集
	10	(3) コマクサ イワツメクサクラス
	10	(4) フジハタザオ オンタデ群集
10	(5) イワオウギ タイツリオウギ群集	
103	10	雪田草原
	10	(1) タカネヤハズハハコ アオノツガザクラ群集
	10	(2) ミヤマイ ハクサンボウフウ群集
	10	(3) タカネヒゴタイ ミヤマキンバイ群集
10	(4) ショウジョウスゲ イワイチョウ群集	

(2) 亜寒帯・亜高山帯自然植生

群落コード	自然度	群 落 名
201	9	エゾマツ トドマツ群集
202	9	アカエゾマツ群集
203	9	イチイ トドマツ群集
204	9	エゾマツ ダケカンバ群集(上部針広混交林)
205	9	シラビソ トウヒ群団
		(1) オオシラビソ群集
		(2) シラビソ オオシラビソ群集(シコクシラベ群集を含む)
		(3) コメツガ群落

群落コード	自然度	群 落 名
206	9	ササ ダケカンバ群落
207	9	カラマツ群落
208	9	ミドリユキザサ ダケカンバ群団（なだれ地広葉低木林）
209	9	キャラボク群落
210	9	シナノキンバイ ミヤマキンボウゲ群団（高茎草原）
211	10	ササ自然草原
	10	（1） チシマザサ群落
	10	（2） シコクザサ群落
212	9	下部針広混交林（エゾマツ・トドマツ ミズナラ，シナノキ，イタヤ林）
213	9	ウラジロヨウラク ミヤマナラ群団（風衝低木林）

（ 3 ） 亜寒帯・亜高山帯代償植生

301	5	ササ群落
	5	（1） チシマザサ群落
	5	（2） クマイザサ群落
	5	（4） チマキザサ群落
302	5	ヒゲノガリヤス群落（ノガリヤス属採草地を含む）
	5	（1） ウシノケグサ群落
303	4	伐跡群落
304	8	ダケカンバ群落

（ 4 ） ブナクラス域自然植生

401	9	チシマザサ ブナ群団
	9	（1） ヒメアオキ ブナ群集
	9	（2） クロモジ ブナ群集
	9	（3） マルバマンサク ブナ群集
	9	（4） スギ ブナ群落（スギ天然林）

群落コード	自然度	群 落 名
402	9	スズタケ ブナ群団
	9	(1) ヤマボウシ ブナ群集
	9	(2) ツクシシャクナゲ ブナ群集
	9	(3) イヌブナ群集
	9	(4) オオモミジガサ ブナ群集
	9	(8) ツガ コカンスゲ群集
	9	(14) シラキ ブナ群集
403	9	エゾイタヤ シナノキ群落(ミズナラ イタヤカエデ群落を含む)
404	9	ウラジロモミ群落
405	9	ヒノキアスナロ群落
	9	(1) アスナロ群落
406	9	ヒノキ群落
	9	(1) ヒノキ シノブカグマ群集
	9	(2) ヒノキ シャクナゲ群集
	9	(3) コキンレイカ ヒノキ群集
407	9	クロベ ヒメコマツ群落
	9	(1) コウヤマキ ヒカゲツツジ群落
	9	(2) アカミノイヌツゲ クロベ群集
408	9	アカマツ群落
409	9	ジュウモンジシダ サワグルミ群集(カツラ林を含む)
410	9	ミヤマクマワラビ シオジ群集 (オヒョウ タイミンカサモドキ群集を含む)
411	9	ハルニレ群集
412	9	ヤナギ高木群落
	9	(1) ドロノキ オオバヤナギ群落
	9	(2) ケショウヤナギ群落
	9	(3) シロヤナギ群集
413	9	ヤナギ低木群落(オノエヤナギ エゾノキヌヤナギ群落などを含む)

群落コード	自然度	群 落 名
414	9	ハンノキ ヤチダモ群集
415	9	ハンノキ群落
416	9	ヤマハンノキ群落(ケヤマハンノキを含む)
417	9	自然低木群落
	9	(1) ミズナラ リョウブ群集(ニシキウツギ群落を含む)
	9	(2) カシワ群落
	9	(3) ヒメヤシャブシ タニウツギ群落
	9	(4) ミヤマキリシマ マイズルソウ群集
	9	(9) ヤシャブシ群落
418	10	自然草原
	10	(1) フジアカショウマ シモツケソウ群集
	10	(2) フジアザミ ヤマホタルブクロ群集
	10	(3) シマキンレイカ シマノガリヤス群集
	10	(6) オオヨモギ オオイタドリ群団
419	9	イヌシデ アカシデ自然林
420	9	イワシデ群落
424	10	イタドリ コメススキ群落(火山荒原植物群落)
425	9	ケヤキ群落
	9	(1) ケンボナシ ケヤキ群集

(5) ブナクラス域代償植生

群落コード	自然度	群 落 名
501	8	ブナ ミズナラ群落
502	8	カシワ ミズナラ群落
503	7	クリ ミズナラ群落
		(2) カスミザクラ コナラ群落
504	7	アカシデ イヌシデ群落
	7	(3) クマシデ群落
505	7	シラカンバ群落

群落コード	自然度	群 落 名
505	7	(1) シラカンバ ササ群落
	7	(2) シラカンバ レンゲツツジ群落
506	7	アカマツ群落
507	5	ニシキウツギ ノリウツギ群落
508	5	ツクシウツギ ノリウツギ群落
509	5	ササ草原
	5	(1) ミヤコザサ群落
	5	(2) チシマザサ クマイザサ群落
	5	(3) ハコネダケ群落
	5	(4) ヤクザサ群落
	5	(5) チマキザサ群落
510	5	ススキ群団
	5	(1) ススキ エゾヤマハギ群落
	5	(2) カワラマツバ ススキ群落
	5	(3) ススキ ホクチアザミ群落
	5	(5) ススキ ミヤマキリシマ群落
	5	(7) アズマザサ ススキ群落
	5	(8) ノハナショウブ ススキ群集
	511	4
512	4	ナガハグサ群落
513	4	ヒオウギアヤメ ノハナショウブ群落
514	4	伐跡群落
	4	(1) ヤナギラン群集
	4	(2) タラノキ クマイチゴ群落
515	2	オオアワダチソウ オオハンゴンソウ群落
(6) ヤブツバキクラス域自然植生		
群落コード	自然度	群 落 名
601	9	モミ シキミ群集
602	9	ツガ ハイノキ群集

群落コード	自然度	群 落 名
603	9	ヒメアオキ ウラジログシ群集
604	9	サカキ ウラジログシ群集
	9	(1) イスノキ ウラジログシ群集
605	9	ケヤキ群落
	9	(1) ケヤキ イロハモミジ群集
606	9	アラカシ群落
	9	(1) アラカシ ナンテン群集
	9	(2) アマミアラカシ群落
607	9	マテバシイ群落
608	9	イチイガシ群落
609	9	シラカシ群集
610	9	サカキ コジイ群集
611	9	シイモチ シリブカガシ群集
612	9	ホルトノキ群落
613	9	スタジイ群落
	9	(1) ヤブコウジ スタジイ群集
	9	(2) ミミズバイ スタジイ群集
	9	(3) オオシマカンスゲ スタジイ群集
	9	(4) ホソバカナワラビ スタジイ群集
	9	(5) リュウキュウアオキ スタジイ群集
	9	(6) アマミテンナンショウ スタジイ群集
	9	(7) ケハダルリミノキ スタジイ群集
	9	(8) オキナワシキミ スタジイ群集
	9	(9) アオバナハイノキ スタジイ群集
	9	(10) ヤクシマアジサイ スタジイ群集
	9	(11) オキナワウラジログシ群集
	9	(12) ユズリハ ヤマグルマ群集
	9	(14) ケナガエサカキ スタジイ群集
	9	(15) ヤワラケガキ スタジイ群落
614	9	タブ群落

群落コード	自然度	群 落 名
614	9	(1) イノデ タブ群集
	9	(2) ムサシアブミ タブ群落
615	9	カゴノキ群落
616	9	ホソバタブ群落
617	9	ウバメガシ群落
	9	(1) ウバメガシ トベラ群集
	9	(2) マサキ トベラ群集
	9	(3) オニヤブソテツ ハマビワ群集
618	9	(6) アカテツ ハマビワ群集
	9	アカマツ群落
619	9	クロマツ群落
620	9	フサザクラ群団
621	9	ハンノキ群落
622	9	河辺ヤナギ低木群落(河辺低木林を含む)
	9	(1) ネコヤナギ タチヤナギ群落
	9	(2) カワラハンノキ群落
623	9	ソテツ群落
624	9	ピロウ群落, ヤシ群落
625	9	ナガミボチョウジ クスノハカエデ群落
626	9	マングローブ群落
627	9	ハチジョウイヌツゲ オオシマツツジ群落
628	9	ガジュマル クロヨナ群集
629	9	アカギ群落
631	9	サガリバナ サキシマスオウ群落
632	9	リュウキュウマツ群落
633	9	コウヤマキ群落
634	9	ムクノキ エノキ群集
635	9	自然低木群落

(7) ヤブツバキクラス域代償植生

群落コード	自然度	群 落 名
701	7	コナラ群落
	7	(1) クヌギ コナラ群集
	7	(2) ヤブムラサキ コナラ群集
	7	(3) オニシバリ コナラ群集
	7	(4) コナラ クリ群落
	7	(6) コナラ ノグルミ群落
702	8	シイ・カシ萌芽林
	8	(1) ハクサンボク マテバシイ群落
	8	(2) オオシマザクラ
	8	(3) タブ ヤブニッケイ幼木林
703	4	伐跡群落
	4	(1) ベニバナボロギク ダンドボロギク群落
	4	(2) クサイチゴ タラノキ群集
704	5	ササ・タケ群落
	5	(1) ヤダケ メダケ群落
	5	(2) ダンチク群落
	5	(3) リュウキュウチク群落
	5	(4) ホウライチク ゴキダケ群落
706	5	ススキ群団
	5	(1) ネザサ ススキ群集
	5	(2) アズマネザサ ススキ群集
	5	(3) チガヤ ススキ群落
707	4	シバ群団
708	4	ハイキビ群落
709	4	路傍雑草群落
	4	(1) クズ カナムグラ群落
	2	(2) セイタカアワダチソウ群落
	4	(3) ヨモギ群落
710	7	アカマツ群落

群落コード	自然度	群 落 名
710	7	(1) ヤマツツジ アカマツ群集
	7	(2) オンツツジ アカマツ群集
	7	(3) モチツツジ アカマツ群集
	7	(4) コバノミツバツツジ アカマツ群集
711	7	クロマツ群落
720	5	クズ群落(林縁生つる 低木群落)

(8) 河辺・湿原・塩沼地・砂丘植生(各クラス域共通)

群落コード	自然度	群 落 名
801	10	ツルコケモモ ミズゴケクラス(高層湿原)
802	10	ヌマガヤオーダー(中間湿原)
803	10	ヨシクラス(低層湿原・セイコノヨシを含む)
	5	(1) ミゾソバ ヨシ群落(代償植生)
804	10	ウキクサクラス・ヒルムシロクラス
805	10	ツルヨシ群集
806	10	オギ群集(自然植生)
		(1) ヤブガラシ オギ群落(代償植生)
807	10	塩沼地植生
	10	(1) アマモクラス
	10	(2) アツケシソウ シバナ群落
	10	(3) ハママツナ ハマサジ群落
808	10	ハマボウ群落
809	10	砂丘植生
	10	(1) ハマニンニク コウボウムギ群落
	10	(2) ハマグルマ コウボウムギ群落
	10	(3) ハマグルマ ハマゴウ群集 (テリハノイバラ チガヤ群落を含む)
	10	(4) ハマナス群落
	10	(5) オカヒジキ ハマベンケイソウ群落
	10	(6) ゲンバイヒルガオ クロイワザサ群落

群落コード	自然度	群 落 名
810	10	ハチジョウススキ群落
	10	(1) イソギク ハチジョウススキ群集
	10	(2) キノクニシオギク アゼトウナ群集
	10	(3) ノジギク群落
	10	(4) シオギク群落
	10	(5) サツマノギク ハチジョウススキ群集
	10	(6) オキナワギク ハチジョウススキ群集
812	10	コハマギク群落
813	10	コウライシバ群落
814	10	隆起珊瑚礁植生
	10	(1) イソマツ モクビャッコウ群集
	10	(2) クサトベラ モンバノキ群集
	10	(3) アダン オオハマボウ群落
816	9	カオリウツギ オオバヤシャブシ群集
817	10	火山荒原植生
	10	(1) イタドリ タマシダ群落
	10	(2) ハチジョウイタドリ シマタヌキラン群集
818	10	硫気孔原植生
819	10	岩上, 多礫地草本群落
820	10	石灰岩地, 蛇紋岩地草本群落
821	10	流水中, 岩上植物群落(カワゴケソウ群落地)

(9) 植林地・耕作地植生(各クラス域共通)

群落コード	自然度	群 落 名
901	6	常緑針葉樹植林
	6	(1) アカマツ植林
	6	(2) クロマツ植林
	6	(3) スギ・ヒノキ・サワラ植林
	6	(4) エゾマツ植林
	6	(5) トドマツ植林

群落コード	自然度	群 落 度
901	6	(6) アカエゾマツ植林
	6	(7) ウラジロモミ植林
	6	(8) リュウキュウマツ植林
	6	(9) モクマオウ植林
	6	(10) ヒノキアスナロ(アテ)植林
	6	(15) シラビソ(シラベ)植林
902	6	落葉針葉樹植林
	6	(1) カラマツ植林(グイマツを含む)
903	3	外国産針葉樹植林(ドイツトウヒ, ストロームマツなど)
904	6	常緑広葉樹植林
	6	(1) クスノキ植林
	6	(2) マテバシイ植林
	6	(3) ソウシジュ植林
905	6	落葉広葉樹植林
	6	(7) ヤマハンノキ植林(コバノヤマハンノキを含む)
906	3	外国産広葉樹植林(ポプラ, ニセアカシア, ギンネムなど)
907	7	竹 林
	7	(1) モウソウチク林
	7	(2) マダケ・ハチク林
908	3	常緑果樹園
909	3	落葉果樹園
910	3	桑 園
911	3	茶 畑
912	3	苗 圃
913	2	畑地雑草群落(シロザクラス)
914	4	ヒメムカシヨモギ オオアレチノギク群落(休耕畑地雑草群落)
915	2	牧草地(人工草地)
	2	(1) ゴルフ場
916	2	水田雑草群落(イネクラス)
917	4	休耕田雑草群落(タウコギクラス)

日本の重要な植物群落の分布（全国版）

昭和 57 年 2 月 12 日発行 定価 3,800 円

編 集 環 境 庁
〒100
東京都千代田区霞が関
3 - 1 - 1
TEL 03 (581) 3351

発 行 大 蔵 省 印 刷 局
〒105
東京都港区虎ノ門 2 - 2 - 4
TEL 03 (582) 4411

落丁，乱丁本はおとりかえします。

1. 刊行案内

- ・日本産鳥類の繁殖分布 環境庁編 (定価 4,500円)
 - ・日本の重要な植物群落
 - 特定植物群落調査報告書 12分冊 環境庁編
 - 北海道版 (定価 2,700円) 東北版 (定価 7,500円)
 - 北関東版 (定価 2,900円) 南関東版 (定価 5,000円)
 - 甲信越版 (定価 3,400円) 北陸版 (定価 4,200円)
 - 東海版 (定価 5,000円) 近畿版 (定価 5,400円)
 - 中国版 (定価 5,000円) 四国版 (定価 3,400円)
 - 北九州版 (定価 4,500円) 南九州・沖縄版 (定価 5,800円)
 - ・日本の重要な両生類・は虫類
 - 動物分布調査(両生類・は虫類)報告書 12分冊 環境庁編
 - 北海道版 (定価 1,000円) 東北版 (定価 2,200円)
 - 北関東版 (定価 1,200円) 南関東版 (定価 1,800円)
 - 甲信越版 (定価 1,600円) 北陸版 (定価 1,500円)
 - 東海版 (定価 1,900円) 近畿版 (定価 2,400円)
 - 中国版 (定価 2,200円) 四国版 (定価 1,200円)
 - 北九州版 (定価 1,200円) 南九州・沖縄版 (定価 1,800円)
 - ・日本の重要な淡水魚類
 - 動物分布調査(淡水魚類)報告書 12分冊 環境庁編
 - 北海道版 (定価 1,500円) 東北版 (定価 2,000円)
 - 北関東版 (定価 1,100円) 南関東版 (定価 1,200円)
 - 甲信越版 (定価 1,100円) 北陸版 (定価 1,200円)
 - 東海版 (定価 1,300円) 近畿版 (定価 2,200円)
 - 中国版 (定価 1,600円) 四国版 (定価 1,400円)
 - 北九州版 (定価 1,700円) 南九州・沖縄版 (定価 1,700円)
 - ・日本の重要な昆虫類
 - 動物分布調査(昆虫類)報告書 12分冊 環境庁編
 - 北海道版 (定価 700円) 東北版 (定価 3,000円)
 - 北関東版 (定価 2,100円) 南関東版 (定価 2,300円)
 - 甲信越版 (定価 1,800円) 北陸版 (定価 1,700円)
 - 東海版 (定価 2,400円) 近畿版 (定価 3,700円)
 - 中国版 (定価 2,400円) 四国版 (定価 1,700円)
 - 北九州版 (定価 1,500円) 南九州・沖縄版 (定価 3,100円)
- ・なお、その他の調査報告書の刊行についても予定しています。

2. 閲覧及びコピーサービス

- (1) 場所 全国9か所の政府刊行物サービスセンター
 期間 昭和60年3月まで
 ・閲覧及びコピーサービスを実施している報告書(昭和56年11月現在)
- | | | | |
|----------------|--------------|-------|------------------|
| 植生 | 調査報告書(都道府県別) | 45冊) | |
| 特定植物群落 | " | (") | 47冊) |
| 動物分布(哺乳類) | " | (") | (全国版(その1)1冊) |
| (鳥類) | " | (") | なし)(" 1冊) |
| 動物分布(両生類, は虫類) | " | (") | 47冊)(" (その1)1冊) |
| (淡水魚類) | " | (") | 47冊) |
| (昆虫類) | " | (") | 47冊) |
| 表土改変状況 | " | (") | なし)(関東版1冊) |
| 湖沼 | " | (") | 37冊) |
| 河川 | " | (") | 47冊) |
| 海岸 | " | (") | なし)(全国版1冊) |
| 干潟, 藻場, サンゴ礁分布 | " | (") | 39冊) |
| 海域環境 | " | (") | 39冊) |
| 海域生物 | " | (") | 39冊) |
- (2) 場所 全国9か所の政府刊行物サービスセンター
 期間 昭和61年3月まで
 ・閲覧及びコピーサービスを実施している報告書(昭和56年11月現在)
- | | | |
|------------|------------|----------------|
| 植生 | 調査報告書(全国版) | 1冊) |
| 特定植物群落 | " | (") 1冊) |
| 動物分布(哺乳類) | " | (") (その2)1冊) |
| (両生類, は虫類) | " | (") (その2)1冊) |
| (淡水魚類) | " | (全国版)1冊) |
| (昆虫類) | " | (") 1冊) |
| 湖沼 | " | (") 1冊) |
| 河川 | " | (") 1冊) |
| 海域 | " | (") 1冊) |
| 海域生物 | " | (") 1冊) |

3. 閲覧のみ実施し、コピーサービスは実施していない地図類(昭和56年11月現在)

現存植生図 (21都道府県 21箱 376面)
 動植物分布図 (47都道府県 53冊 53面)